

鳴門海峡周辺関連年表

西暦	年	月日	事項	出典/備考
	神話		天の御柱巡りの時、女人から先に声を掛けられた後にできた子どもの水蛭子は、葦船に入れて流し去て、次にできた淡島も子どもの数に入れなかったという。	記上巻
	神話		淡能碁呂島に降り立った伊邪那岐と伊邪那美の命は、大八島国を生んだが、その最初の島は、「淡道之穂之狹別島」だったという。	記上巻
	神話		磯敷慮島に降り立った伊奘諾尊と伊奘冉尊は、大八洲国を生んだが、その時二人は、淡路洲を「胞」(エナ)にした。しかし意(こころ)に快ばざる所だった。故に淡路洲と名づけた。すなわち大日本豊秋津洲、伊予二名洲、筑紫洲、双子の億岐洲と佐度洲(世の人が双子を生むのはこれに倣っている)、越洲、吉備子洲を生み、これで大八洲国の号が起きた。また対馬島と壱岐島と処々の小島は、みな潮の沫が凝って成ったものである。または水の沫が凝って成ったという。	紀神代上4段正文
	神話		天の柱巡りの時、陰神が先に声掛けした後にできた子どもの蛭児は、葦船の載せて流し、次の淡洲も児の数に入れなかったという。	紀神代上4段1書1
	神話		二神は交合して夫婦となり、淡路洲と淡洲を胞として、まず大日本豊秋津洲を生んだという。	紀神代上4段1書6
	神話		先ず淡路洲を生み、次に大日本豊秋津洲など、七つの洲を生んだという。	紀神代上4段1書7
	神話		磯敷慮島を胞として、淡路洲を生み、次に大日本豊秋津洲、伊予二名洲、筑紫洲、吉備子洲、双子の億岐洲と佐度洲、越洲を生んだという。	紀神代上4段1書8
	神話		淡路洲を胞として、大日本豊秋津洲を生み、次に淡洲、伊予二名洲、億岐三子洲、佐度洲、筑紫洲、吉備子洲、大洲を生んだという。	紀神代上4段1書9
	神話		陰神が「あなにえや、え少男」と唱え、陽神の手を握って夫婦となり、淡路洲を生み、次に蛭児を生んだという。	紀神代上4段1書10
	神話		伊奘諾尊と伊奘冉尊は、「すでに大八洲国と山川草木を生んだ。どうして天下の主者を生まないでいられようか」といい、まず日神(大日靈貴、天照大神、天照大日靈尊)を生んだ。次に月神(月弓尊、月夜見尊、月読尊)を生んだ。次に蛭児を生んだ。しかし三歳になっても脚が立たなかつたので、天磐櫛樟船に載せ、風のまにまに放ったという。	紀神代上5段正文
	神話		「吾は御寓す珍の子を生もうとおもう」といった伊奘諾尊が、左手に白銅鏡を持った時、化り出る神がいた。これを大日靈尊と申すという。(珍はウヅと読むという)。	紀神代上5段1書1
	神話		すでに日と月が生まれた。次に蛭児を生んだ。この児は三歳になっても脚がなお立たなかつた。初め伊奘諾と伊奘冉が柱巡りをした時、先ず陰神が喜びの声を発した。これは陰陽の理に違っていた。だから今蛭児を生んだのである。次に素戔鳴尊を生んだ後、鳥磐櫛樟船を生んだ。すなわちこの船に蛭児を載せ、流れのままに放ち棄てたという。	紀神代上5段1書2
	神話		伊奘冉尊は火の神を生んだ時、灼かれて神退去った。故に紀伊国の熊野の有馬村に葬った。地元の人はこの神の魂を祭るのに、花の時には花をもって祭る。また鼓・吹、幡旗を用い、歌舞して祭るといふ。	紀神代上5段1書5
	神話		黄泉国から逃れてきた伊邪那岐の大神は、「吾は、いな醜め醜めき穢き国に行っていた。故に御身の禊ぎをしよう」と詔り、竺紫の日向の橘の小門の阿波岐原に行き、禊ぎ祓えをしたという。	記上巻
	神話		泉国から逃れてきた伊奘諾尊は、その穢悪を濯ぎ除こうと欲ひ、出かけて粟門と速吸名門を見た。しかしこの二つの門は、潮がはなはだ速かつた。故に橘之小門に戻って払い濯いだという。	紀神代上5段1書10
	神話		八拳須が胸先に伸ばし泣きわめいている速須佐之男を「神やらひ」した後、伊邪那岐の大神は、淡路の多賀に坐すという。	記上巻
	神話		すでに神功を畢へた伊奘諾尊は、幽宮を淡路の洲に構え、そこで寂然に、とこしえに隠れたという。別伝によると、伊奘諾尊は神功を終えたことを天に登って報告した。故に日の少宮に留まり住んだという。	紀神代上6段正文
	神話		神代の巻に磯敷慮島三上が嶽に神遊出たり。此の三上嶽は阿万福良の堺、居神の上にある。(前略)居神は福良の元浦にして凡そ八百年以前漁夫家八十軒許ありしに大津浪に流れ其の時は今の如くならず、福良の西の山傍まで浪うちしものなるが、追々原田川筋の砂馳せ出で地面となれりと古人より言伝す。年号不明。	福良町誌(福良旧記抜出)
	弥生中期		南あわじ市西淡町の慶野松原の砂嘴上に銅鐸が埋納された。	※1
	神武天皇段		東征するカムヤマトイハレヒコらの船が、速吸門に差し掛かった時、亀の甲に乗り釣りをして「打ち羽」を振る男が現れた。彼は水先案内の功により、「槁根津日子」という名を賜った。これは倭国造等の祖だという。	記
	崇仁天皇 ⁸⁸	7月戊午	但馬国の天日槍の神宝、出石刀子が突然淡路島に出現した。島の人をこれを神と思ひ、刀子のために祠を立てた。これは今も祭られているという。	紀

西暦	年	月日	事項	出典/備考
	仲哀天皇段		仲哀天皇の時代、「淡道之屯家」を定めたという。	記
	応神天皇22	3月丁酉	応神天皇妃を吉備に送り届けたのは「淡路の御原の海人八十人」だったという。	紀
	仁徳天皇	即位前紀	「淡路の海人八十人」が水手として朝鮮半島へ派遣されたという。	紀
	仁徳天皇段		仁徳天皇が黒日売を慕って淡路島に行った時、「押し照るや 難波の崎よ 出で立ちて 我が国見れば 淡島 淤能基呂島 あぢまさの島も見ゆ 離つ島見ゆ」と歌ったという。	記
	仁徳天皇段		菟寸河の西にある高樹を伐って作った船はとても船脚が速く「枯野」と呼んだ。朝夕に淡路島の寒泉を天皇のもとに運搬・献上していた。ある日破損した船材の一部で琴を作ると、その音は七つの里にまで響いたという。その後うたわれた歌のなかに「由良の門」の地名がみえる。	記
	履中天皇	即位前紀	「淡路の野島の海人」が住吉仲皇子の謀反に加担したという。	紀
	履中天皇5	9月壬寅	天皇が淡路島へ狩猟に出かけた時、島のイザナギ神が、河内飼部の鯨の血の臭気に堪えられないという託宣を下したという。	紀
	履中天皇		イザホワケの命(後の履中天皇)が志深里(しじみのさと)の井戸の近くで食事をした時、シジミ貝が飯の筥の縁に上がってきた。イザホワケの命は、「この貝は阿波国の和那散で食べた貝だな」といったので、志深里と名づけたという。	風 美囊郡志深里条
	允恭天皇14	9月甲子	天皇が淡路島へ狩猟に出かけた時、島の神が祟って「赤石の海底の真珠で我を祀れば 獣を得ることが出来る」といった。そこで阿波国の長邑の男狹磯が潜って鮑の真珠を得たが絶命した。その墓は今も残っているという。	紀
	古墳後期		南あわじ市阿那賀の伊弉港の沖合に、海人の奥津城と考えられる「沖ノ島古墳群」が築造された。	※2
			葦原志拳乎命に「海中」での宿泊を命じられたアメノヒボコは、剣で海水を攪拌して宿ったという。	風 揖保郡揖保里条
			宇須伎津というミナトの西側に「絞水の淵」があり、だから現在の揖保川のことを「宇頭川」と呼ぶという。	風 揖保郡石海里条
			印南郡の南の「海中」に小島があり、「南毘都麻」と呼ぶという。	風 印南郡条
	安閑天皇2	5月甲寅	火国の春日部屯倉、播磨国の越部屯倉などともに、阿波国の春日部屯倉を置いたという。	紀
595	推古3	4月	沈水(香木)が淡路に漂着する(南淡・福良に聖徳太子による観音像造立伝承あり)。	続福良古事記
675	天武4	2月癸未	摂津・播磨・淡路・但馬など13か国に命じ、歌の巧みな男女・侏儒・伎人を貢進させた。	紀
702	大宝2	4月丁未	秦忌寸広庭が、柊製の八尋の「梓」を献上し、伊勢大神宮に祭ったという	続紀
718	養老2	5月庚子	伊予国經由ではなく、阿波国經由の交通路への変更を申し出た土佐国司の申請が認められた。	続紀
735	天平7		平城京二条大路で出土した木簡に、淡路国津名郡の安井郷上里の「海部」の氏族名がみえる。	平城木簡24
			平城京二条大路で出土した木簡に、淡路国津名郡の育波郷月里の「海部」の氏族名がみえる。	平城木簡24
761	天平宝字6		平城宮跡で出土した木簡に、淡路国三原郡阿麻郷の「海部」の氏族名がみえる。	平城木簡2
			平城宮跡で出土した木簡に、淡路国三原郡阿麻郷の「丹比部」の氏族名がみえる。	平城木簡19
8世紀			平城宮東院地区で出土した木簡に、淡路国津名郡の物部里の竹野君広島という人夫の名がみえる。	木簡研究2
851	仁寿元	12月	淡路国の大和国魂神を官社とした。	日本三代実録
859	貞観元	1月	淡路国の無品伊佐奈岐命に一品を授けた。	日本三代実録
862	貞観4	5月	海賊が横行するので、播磨・淡路・阿波などの瀬戸内海沿岸の諸国に人夫を出させて此れを追捕させた。	日本三代実録
887	仁和3	7月	仁和地震(南海地震)が発生し、津波で福良の漁家が流出か。	福良古事記
935	承平4	1月	紀貫之一行が、阿波土佐泊から沼島北岸を經由して和泉多奈川に渡る。	土佐日記
940	天慶3	2月	淡路国から藤原純友の乱に関連して、賊が襲来して兵器を奪われたと報告した。	貞信公記
10世紀			淡路国津名郡に、津名・志筑・賀茂・平安・物部・広田・都志・育波・来馬・郡家の10郷があった。三原郡に、倭文・幡多・養宜・榎列・神稻・阿萬・賀集の7郷があった。	倭名類聚抄 巻9
10世紀			淡路国の式内社として、津名郡に淡路伊佐奈伎神社(明神大)・伊勢久留麻神社・岩屋神社・築狭神社・賀茂神社・由良湊神社・志筑神社・岸河神社・河上神社の9座があった。三原郡には、笑原神社・湊口神社・大和国魂神社(名神大)・九度神社の4座があった。	延喜式 巻10
1184	寿永3	1月	福良で蜂起した源為義の孫掃部冠者・淡路冠者が、平教盛に破れる。	延慶本平家物語

西暦	年	月日	事項	出典/備考
		2月	平惟盛が讃岐屋島を離脱して紀伊に向かう。	玉葉
1185	元暦2	2月	源義経が摂津渡部から阿波勝浦に渡航する。	吾妻鏡
1223	貞応2	4月	淡路国の所領全体を記した大田文が作成される。	皆川文書
1243	仁治4	2月	讃岐に流罪になった高野山僧道範が福良から阿波赤田に渡航する。	南海流浪記
1249	建長元	8月	罪を許された高野山僧道範が撫養口から福良に渡航する。	南海流浪記
1289	正応2	7月	僧一遍が阿波から福良に渡航する。	一遍上人絵伝
1332	元弘2		後醍醐天皇子尊良親王の御息所が尼崎で拉致されるも、鳴門の渦潮で奇瑞により救われ沼島に逃れるという。	太平記18
1340	暦応3	6月	南朝後村上天皇が紀伊小山氏に沼島での後方支援を求める。	西向小山家文書
1342	暦応5		和歌山県白浜町長寿寺から出土の備前焼に紀年銘が刻まれる。	『日置川町史』1
1342	興国3	4月	南朝方の脇屋義助が、紀伊田辺から沼島を経由して小豆島に渡海する。	太平記24
1350	観応元	6月	足利義詮が紀伊安宅氏に沼島の海賊退治を命じる。	安宅文書
1353	文和2	10月	淡路守護細川氏春が、上田保門鏡守原で南朝勢力をやぶる。	船越文書
1392	明德3	2月	山名義理が海賊梶原とともに、紀伊由良から備後への渡航を内談する。	明德記
1431	永享3	6月	炬口八幡宮の宥恵が、紀伊広庄八幡宮から借用した八幡宮通縁起を書写する。	八幡宮通縁起
1436	永享8	4月	沼島住人梶原俊景が阿万庄八幡宮に經典を奉納する。	淡路常磐草
1445	文安2		「兵庫北関入船納帳」「雑船納帳」に淡路・阿波の湊が多数みえる。	灯心文庫・東大寺文書
1507	永正4	8月	阿波から上洛した三好之長が、被官梶原を殺害する。	宣胤卿記
1519	永正16	5月	淡路守護細川尚春が、三好之長に殺害され、淡路守護家が滅亡する。	永源師檀紀年録
1521	永正18	3月	將軍足利義植が京都を出奔し、淡路沼島に滞在する。	足利季世記
1523	大永3	4月	足利義植が阿波撫養で没する。	公卿補任
1528	大永8	4月	炬口城主安宅次郎三郎が三好氏に背き、島田遠江守・藝浦藤次らに追われる。	阿波国徴古雜抄所収文書
1533	天文2	12月	沼島八幡宮棟札に、檀那梶原景口の名前がみえる。	神道大系41
1552	天文21	10月	畿内の三好長慶、阿波の十河一存・三好実休が、洲本の安宅冬康のもとに渡海して会合する。	細川両家記
1560	永祿3	4月	三好長慶が兵庫から、三好実休が阿波から、洲本の安宅冬康のもとに渡海して会合する。	細川両家記
1575	天正3	秋	長宗我部元親が阿波南部に侵攻する。	元親記
		9～10月	堺妙國寺僧了日班、堺から阿波勝瑞に行き問答。帰途、フクラ浦、スモトを経て堺に入る。	『己行記』（堺妙國寺蔵）
1576	天正4	6月	毛利方の兵船が淡路岩屋に着陣し、織田・毛利戦争はじまる。	佐藤行信氏所蔵文書
		12月	三好長治が長宗我部元親に支援された細川真之にやぶれ、阿波別宮で自害、土佐泊の森志摩守が淡路渡海のための船を用意するが間に合わず。	昔阿波物語
1578	天正6	1月	三好長治実弟の存保が堺から撫養に下着して、阿波勝瑞城に入る。	三好成立記
1580	天正8	1月	長宗我部元親が阿波を制圧し、織田方とも協調したため、三好存保は讃岐に、篠原自通は阿波木津城に逃亡する。	昔阿波物語
		4月	沼島八幡宮棟札に、旦那梶原秀景の名前がみえる。	神道大系41
		8月	大坂の牢人衆・紀伊雑賀衆が、淡路の勢力とともに阿波勝瑞城に入る。	吉田文書
1581	天正9	11月	織田信長方が淡路を制圧し、阿波が長宗我部元親にかわり三好康長に委ねられる。	信長公記
1582	天正10	6月	本能寺で織田信長が殺害され、阿波に出兵していた三好康長が逃れる。	元親記
		10月	淡路を領有していた羽柴秀吉に支援された三好存保が、長宗我部元親にやぶれ、秀吉は木津・土佐泊城に兵糧を入れさせる。	黒田家文書
1583	天正11	4月	阿波を制圧した長宗我部元親の弟香宗我部親泰が、木津城を落とし淡路に攻め入る。	香宗我部家伝證文
1584	天正12	7月	秀吉が淡路の水軍領主を播磨内陸部に転封させる。	船越文書
1585	天正13	5月	羽柴秀長軍が長宗我部攻めのため福良から阿波土佐泊に渡海する。	四国御発向並北国御動座
		9月	淡路三原・津名郡の検地が行われ、脇坂安治に与えられる。	龍野神社文書
		9月	阿波に蜂須賀家政が入部し、土佐泊の森志摩守は椿泊松鶴城に移封となる。	古伝記
1591	天正19	9月	秀吉、朝鮮出陣に際し脇坂安治・加藤嘉明・菅平右衛門尉らの淡路勢に出陣を命ずる。	『兵庫県史 別巻』
	天正年間		阿万の郷備中守（『阿万町郷土誌』では丹後守）が沼島梶原氏との戦いに敗れ福良にて自刃したと伝える（のちに福良で疫病が流行したため郷殿明神を建立）。	福良古事記 阿万町郷土誌
1596	文祿5		慶長伏見地震で佃遺跡（淡路市）で噴砂、淡路の国の第一の城郭（洲本城か）が崩壊する。	※3、十六・七世紀イエズス会日本報告集
1596	文祿5以降		慶長伏見地震により鳴門付近の地面が沈降したため、塩浜開発の契機となったと伝える。	『鳴門辺集』
1599	慶長4	3月	蜂須賀家政が播磨国から馬居七郎兵衛・大谷五郎太夫を招いて撫養塩浜の開発に着手させる。	『街道の日本史』年表

西暦	年	月日	事項	出典/備考
1604	慶長9		慶長地震（南海地震）で千光寺（洲本市）で被害と伝える（実際には文禄5年（1596）閏7月の慶長伏見地震によるとの説が有力）。	※4
1605	慶長10	—	このころ、撫養塩田に大斉田・中斉田・大黒崎・小黒崎の四組塩浜が成立。	『図説 徳島県の歴史』 年表
1609	慶長14	9月	幕府、淡路洲本城主脇坂安治を伊予大洲に移し、伊勢安濃津城主藤堂高虎に淡路を守らせる。	『兵庫県史 別巻』
1610	慶長15		福良本町の十一屋桐原氏や萩原氏など大坂の陣に大坂城方として参戦する。落城後福良に逃げ帰ったと伝える。	福良古事記
1610	慶長15	2月	池田輝政の三男池田忠雄が淡路で6万石を領有する。	淡路市地域計画 『兵庫県大百科事典』 年表
1611	慶長16		池田忠雄、淡路一国の検地を行う。	『兵庫県史 別巻』
1613	慶長18		忠雄、岩屋城を廃し由良成山に城を建設。	淡路市地域計画
1615	慶長20	閏6月	幕府、阿波徳島城主蜂須賀至鎮に淡路を加封する。	『兵庫県史 別巻』
1619	元和5	6月	徳島城主蜂須賀至鎮、稲田示植を淡路由良城代とする。	『兵庫県史 別巻』
1625	寛永2	9月	森甚大夫、由良城代となる。	『兵庫県史 別巻』
1627	寛永4		徳島藩、淡路に総検地と棟付改を実施する。	『兵庫県史 別巻』
1631	寛永8	6月27日	稲田示植、淡路城代となり洲本に移る（由良引け）。	『街道の日本史』 年表 新見貫次『淡路史』 年表
1635	寛永12		淡路洲本城が築造される。	『兵庫県史 別巻』
1644	正保元	—	このころ、撫養塩方12ヵ村（斎田・黒崎・大桑島・小桑島・南浜・北浜・立岩・弁財天・高島・三ツ石・明神・小島田）が成立する。	『徳島県の歴史』 年表
1645	正保2	—	塩方代官所を設置する。	『徳島県の歴史』 年表
1657	明暦3	4月25日	蜂須賀光隆、撫養大毛山で鹿狩り。	『鳴門市史 上巻』 688頁
1663	寛文3	1月23日	徳島藩、船舶交通に付き心得を申付けける。	『徳島県史 第3巻』 年表
1680	延宝8		銀札場を洲本、多賀、沼島に設置する。	新見貫次『淡路史』 年表
1686	貞享3		西淡町慶野から銅鐸8個が出土する。	『兵庫県大百科事典』 年表
1693	元禄6		淡路の人形座上村源之丞座、阿波東富田で興行する。	
1696	元禄9	10月1日	蜂須賀綱矩、洲本から撫養の御屋敷に入り里浦・土佐泊を巡見して鳴門観潮を行う。	『鳴門市史 上巻』 693頁
1697	元禄10		僧碧湛『淡国通記』を著す。	『兵庫県史 別巻』
1700	元禄13		徳島藩、塩の積出につき船舶を取締まる。	『徳島県史 第3巻』 年表
1704	宝永元		三原町榎利二宮から、慶雲4年（707）鋳造の古銅印「大和社印」が発見される。	『兵庫県大百科事典』 年表
1707	宝永4	10月4日	宝永地震により福良港内洲崎・蛇の鰭間の砂州が流失と伝える。	福良古事記
1722	享保7	5月23日	徳島藩、塩を取り扱う問屋について諸規定を出す。	『徳島県史 第3巻』 年表
1728	享保14	6月	蜂須賀宗員、藩主となり帰国してのち阿波・淡路を巡見、福良屋敷に入る。	『文化編』
1730	享保15		仲野安雄『重修淡路常盤草』を著す。	『兵庫県史 別巻』
1732	享保17		淡路三原郡伊賀利村の庄屋仲野安雄、蝗害対策について幕府への上申書を起草する。	『兵庫県史 別巻』
1739	元文4	2月5日	阿波の産物を国外に積み出すことを禁ずる。	『徳島県史 第3巻』 年表
1760	宝暦10	10月29日	蜂須賀重喜、撫養で鹿狩り。	『鳴門市史 上巻』 688頁
1765	明和3		由良新川口が開削される。	『洲本市史』
1768	明和5	8月7日	蜂須賀重喜、撫養に行き大毛山で鹿狩り。	『鳴門市史 上巻』 688頁
		—	浄瑠璃「傾城阿波鳴門」（近松半二作）なる。	『徳島県史 第3巻』 年表
1781	天明元	4月	大坂の歌人加藤景範、渦潮を見物し「観濤録」を記す。	『文化編』
1782	天明2	5月	淡路の百姓、阿波藩の繩趣法・増米法・木綿会所仕法などに反対して強訴する。	『兵庫県史 別巻』
1789	寛政元	—	阿波の塩田面積433町8反7畝・産塩高177万9698俵に達する。	『図説 徳島県の歴史』 年表
1793	寛政5	1月20日	蜂須賀治昭、撫養で鹿狩りを行う。	『鳴門市史 上巻』 688頁
1795	寛政7	6月	内ノ海周辺の地誌『鳴門辺集』が編さんされる。	『文化編』
1796	寛政8	11月	御用絵師鈴木芙蓉「鳴門十二勝真景図巻」を描く。	『文化編』
1799	寛政11		淡路の商人高田屋嘉兵衛がエトロフ航路を開く。	『兵庫県大百科事典』 年表
1803	享和3	10月	大坂の文人篠崎小竹「観鳴門記」を記す。	『文化編』
1808	文化5	1月	伊能忠敬が撫養にきて、阿波国の測量をはじめる。	『徳島県の歴史』 年表
1810	文化7	—	塩の移出許可される。	『徳島県史 第3巻』 年表
1811	文化8	—	『阿波名所図会』が刊行される。	『徳島県の歴史』 年表
1814	文化11		「福良古事記」の著者萩原伊平が生まれる。	福良古事記
1815	文化12	—	藤原之憲、阿波国の地誌『阿波志』を編纂する。	『徳島県の歴史』 年表
1818	文政元		『淡路国風俗問状答』ができる。	『兵庫県史 別巻』
1819	文政2	3月15日	蜂須賀齊昌、参勤の途次はじめて今川口から由良に入る。	「参勤・帰国旅中日記」
1820	文政3	—	小原春造、藩命により『阿淡産志』の編纂に着手（完成は明治5年）。	『図説 徳島県の歴史』 年表
1823	文政6		由良今川口が開削される。	『洲本市史』
1824	文政7		淡路三原郡阿那賀村の山口家、荒布の加工販売を始める。	『兵庫県史 別巻』

西暦	年	月日	事項	出典/備考
1825	文政8		藤井容信・彰民父子、『淡路草』15巻を著す。	『兵庫県大百科事典』年表
1828	文政11		この年より徳島藩が淡路国内で分間絵図を作成し始める（～天保12年（1841））。	※5
1830	天保元	—	この頃、人形座の数は最盛となる。	『徳島県史 第3巻』年表
1831	天保2		高田屋嘉兵衛の尽力により塩屋浦に新湊完成。	『淡路市地域計画』
		—	「阿波国御絵図」が完成する。	『徳島県の歴史』年表
			徳島藩の測量家岡崎三蔵父子による「阿波国図」（約4万5000分の1）が完成する。	『街道の日本史』年表
1832	天保3	11月	淡路国三原郡上八木村で、助郷役（町送り）の改善を嘆願して強訴する。	『兵庫県大百科事典』年表
			渡辺月石が『堅磐草』10巻、補遺1冊を著す。	『兵庫県大百科事典』年表
1837	天保8	2月	大塩平八郎の乱の情報が淡路経由で阿波に伝わる。	『徳島県の歴史』年表
			福良浦、天保飢饉と疫病流行により被害甚大。	福良古事記、近世淡路史考
1845	弘化2	—	中山茂純、『阿淡年表秘録』を完成させる。	『徳島県の歴史』年表
		—	里浦（鳴門市）の前川文太郎、わかめ製法を改良する。	『徳島県の百年』年表
1850	嘉永3	3月15日	御用絵師魚住貫魚「鳴門真景図」を描く。	『文化編』
			この頃、淡路島江井で、堺の技術を導入して杉葉粉を用いた線香の製造が始まる。	『兵庫県大百科事典』年表
1851	嘉永4		暁鐘成が『淡路国名所図絵』を刊行する。	『兵庫県大百科事典』年表
1852	嘉永5		撫養の廻船問屋山西家に入りする淡路廻船が72隻を数える。	『文化編』
1854	嘉永7	11月5日	安政南海地震で福良に津波が襲来。	※3、※6、福良古事記、 『洲本市史』
			徳島藩、岩屋・由良に砲台を築くように命じられる。	『兵庫県大百科事典』年表
1856	安政3	1月15日	阿波松茂の大庄屋三木与五郎、南海地震の被害を伝えて敬諭碑を建立する。	※7
1857	安政4		洲本の小西友直・錦江父子が『味地草』を著す。	『兵庫県大百科事典』年表
			歌川広重、三枚組錦絵「阿波鳴門之風景」を描く。	『文化編』
1862	文久2		阿波藩、淡路岩屋の砲台竣工する。	『兵庫県史 別巻』
1863	文久3		阿波藩、淡路炬口浦・津田村・生石村の砲台竣工する。	『兵庫県史 別巻』
1864	元治元		阿波藩、淡路由良浦に進修館を開設する。	『兵庫県史 別巻』
1865	慶応元		阿波藩、淡路松帆に講習館を開設する。	『兵庫県史 別巻』
1866	慶応2		撫養の大凧（宇田紙200枚）上がる。	『徳島県史 第3巻』年表
1867	慶応3		幕末期に、淡路島南淡地区から島内全域に、粘土瓦の生産が拡大する。	『兵庫県大百科事典』年表
1869	明治2	6月24日	版籍奉還により徳島藩が成立。蜂須賀茂韶が知藩事に任命。	『徳島県の歴史』年表
1870	明治3	5月	阿波藩士、淡路の稲田邸および家土屋敷を襲撃する（庚午事変・稲田騒動）。	『兵庫県史 別巻』
1871	明治4	2月	阿波藩、淡路洲本に東小学校を開設する。	『兵庫県史 別巻』
		6月	淡路津名郡の43ヵ村浦を兵庫県に編入し、志筑に県出張所をおく。	『兵庫県史 別巻』
		7月14日	徳島藩を廃し、徳島県を設置する。	『徳島県の歴史』年表
1875	明治8	3月3日	四国遍路接待禁止の通達でる。	『徳島県の百年』年表
1876	明治9	9月	洲本に支庁設置。	『兵庫県百年史』年表
		8月21日	名東県が廃止され、阿波は高知県、淡路は兵庫県に合併する。	『徳島県の歴史』年表
1877	明治10	3月	「淡路新聞」が発刊される。	『兵庫県百年史』年表
1878	明治11	—	林省三の『阿波国地誌略』成る。	『徳島県史 第5巻』年表
1881	明治14	11月22日	『阿波国郡村誌』（三好・板野・麻植）成る。	『徳島県史 第5巻』年表
1882	明治15		鳴門から大阪・兵庫・淡路間の航路が開かれる。	『徳島県史 第5巻』年表
1884	明治17	5月	大阪商船会社徳島支店が設立される。	『徳島県の歴史』年表
1884	明治17	—	斎田村掃守藤吉、鳴門市岡崎港～大阪・兵庫・淡路間航路を開く。	『徳島県史 第5巻』年表
1886	明治19	11月29日	堤大介の『阿波国名勝記』成る。	『徳島県史 第5巻』年表
1887	明治20	9月14日	阿波国共同汽船が創立する。	『徳島県の歴史』年表
1888	明治21	5月	萩原伊平『福良古事記』（明治21年版）を著す。	福良古事記
1889	明治22	12月	『兵庫県漁業慣行録』が刊行される。	『兵庫県漁業慣行録』
1891	明治24		撫養・福良の有志が共同福良汽船株式会社を設立し、1日に3往復した。	『文化編』
1892	明治25	1月15日	小学阿波国地誌（阿波国教育会）なる。	『徳島県史 第5巻』年表
1894	明治27	1月	名東郡津名浦漁民、大阪佐野貝塚漁民と漁区争い。	『図説 徳島県の歴史』年表
1895	明治28	1月2日	板野郡里浦漁民、兵庫県福良漁民と漁区争い（その後、両県警察官の争いになる）。	『徳島県の百年』年表
1896	明治29	1月	徳島鉄道株式会社が設立される。	『徳島県の歴史』年表
		6月	由良要塞司令部設置。	『兵庫県百年史』年表
1896	明治29		萩原伊平『福良古事記』（明治29年版）を著す。	福良古事記
1898	明治31	4月	鳴門海峡（里浦・阿万浦間）に海底電線敷設される。	『徳島県の百年』年表
1901	明治34	9月	大阪府加太と淡路由良の間で漁場紛争おきる。	『兵庫県百年史』年表
1903	明治36		第5回内国勸業博覧会に富田久三郎ら8名が苦汁製品を出品する。	『文化編』
1905	明治38	8月2日	鳴門村会で鳴門公園設置を進める公園設置委員会の決議。	『鳴門市史 下巻』961頁

西暦	年	月日	事項	出典/備考
1907	明治40	5月	村宮鳴門公園が竣工し、鳴門保勝会が結成される。	『文化編』
			福良の有志が福良汽船株式会社を設立し、1日三往復する。	『文化編』
1908	明治41	2月23日	石毛賢之助の『阿波名勝案内』出版。	『徳島県の百年』年表
1914	大正3	12月13日	鳴門市岡崎に阿陽汽船(株)創立。	『徳島県史 第6巻』年表
1915	大正4	6月	ポルトガル人モラエス、鳴門の渦潮見物に向き「日本の風景」と評す。	『文化編』
1916	大正5	4月10日	『御大典記念阿波藩民政資料』が出版される。	『徳島県の歴史』年表
		1月28日	撫養川東塩田労働組合結成。	『徳島県の百年』年表
1921	大正10	9月	大塚武三郎、大塚製薬工業部を設立。	『文化編』
1922	大正11	4月	福良汽船と摂陽汽船が共同し阿淡連絡汽船会社設立し、撫養・福良間の定期便が開通される。	『文化編』
		11月	皇太子裕仁親王、鳴門公園に行啓。	『兵庫県百年史』年表
1924	大正13	10月	鳴門保勝会が『鳴門案内』を編集発行。	『文化編』
1925	大正14	6月	淡路鉄道、洲本・福良間全線開通。	『文化編』
1926	大正15	8月11日	吉川英治作「鳴門秘帖」の連載が『大阪毎日新聞』で始まる。	『文化編』
1927	昭和2		日本新八景が選定され、鳴門海峡は海岸編24カ所に選ばれる。	『文化編』
1934	昭和9	9月	室戸台風襲来。	『兵庫県百年史』年表
1936	昭和11	10月4日	日本航空輸送株式会社が大阪・徳島・高知間の航路を開設する。	『徳島県の歴史』年表
1940	昭和15	12月16日	塩業企業合同により本齋田工場建設される。	『徳島県史 第6巻』年表
1941	昭和16	4月	アチック・ミュージアムによる淡路島・沼島の水産史調査。	※8
1946	昭和21	12月21日	南海大地震が発生する。	『徳島県の歴史』年表
1950	昭和25	3月	天皇淡路島御視察。	『兵庫県百年史』年表
		9月	ジェーン台風、神戸付近に上陸。	『兵庫県百年史』年表
1952	昭和27	5月18日	鳴門が瀬戸内海国立公園に指定される。	『徳島県の歴史』年表
1954	昭和29	9月	沼島、離島振興法により離島指定。	『兵庫県百年史』年表
		12月	本土・淡路・四国フェリーボート開通。	『兵庫県百年史』年表
		4月12日	鳴門港・福良港間にフェリーボートが就航する。	『徳島県の歴史』年表
1958	昭和33	1月26日	南海丸、鳴門沖で沈没。乗客・乗員167人全員死亡。	『徳島県の百年』年表
		4月7日	鳴門自然水族館開館。	『徳島県の百年』年表
1959	昭和34	9月	伊勢湾台風襲来。	『兵庫県百年史』年表
1960	昭和35	5月18日	明石・鳴門海峡に架け橋実現のため、神戸・兵庫・徳島の3県市議会は促進会をつくる。	『旧版 徳島県の歴史』年表
1961	昭和36	8月	鳴門海峡架設工事が完成し、送電開始。	『兵庫県百年史』年表
		7月30日	小鳴門橋が開通する。	『徳島県の歴史』年表
1965	昭和40	5月	鳴門海峡フェリー(西淡町・鳴門市)開設。	『兵庫県百年史』年表
1966	昭和41	12月1日	鳴門イオン製塩株式会社が設立される(46年10月、鳴門塩業株式会社と改称)。	『徳島県の百年』年表
1968	昭和43	3月	淡路人形座、福良の阿淡連絡汽船会社に移転し、本格的な公演を始める。	『淡路島の文化遺産』淡路人形協会
1972	昭和47	1月25日	鳴門市の全塩田が廃止される。	『徳島県の歴史』年表
1972	昭和47	7月15日	淡路島の歴史や淡路人形浄瑠璃を展示する洲本市立淡路文化史料館開館する。	
1974	昭和49	12月19日	三菱石油水島工場から重油流出、鳴門海峡から阿南市沖まで拡大。沿岸漁業に被害続出。	『徳島県の百年』年表
1975	昭和50	1月23日	鳴門市北灘町の養殖ハマチ業者42人、企業・国・地方自治体を相手取り、赤潮損害賠償・排水差し止めをもとめ、徳島地裁に提訴。	『徳島県の百年』年表
1978	昭和53	6月14日	鳴門・福良間の日本道路公団鳴門フェリー廃止。	『徳島県の百年』年表
1985	昭和60	6月8日	大鳴門橋が開通する。	
1995	平成7	1月17日	阪神淡路大震災起きる。	
1997	平成9	8月20日	徳島阪神フェリーの全廃が決定する。	『徳島県の歴史』年表
1998	平成10	3月20日	大塚国際美術館が鳴門市に開館する。	『徳島県の歴史』年表
		4月5日	明石海峡大橋が開通する。	
		4月17日	道の駅うずしお認定。	
2000	平成12	3月31日	徳島自動車道が全通する。	『徳島県の歴史』年表
		4月29日	兵庫県立歴史博物館特別展「海と山と花の国ー淡路の歴史と文化ー」開催される。	
2002	平成14	1月7日	徳島・大阪線空路が廃止される。	『徳島県の歴史』年表
2014	平成26	7月29日	鳴門海峡の渦潮を世界遺産にする会発足。	南あわじ市HP
		8月25日	「うず潮」の世界遺産登録を推進する淡路島議員連盟発足。	南あわじ市HP
		12月18日	兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会発足。	南あわじ市HP
2015	平成27	4月1日	兵庫県立歴史博物館内にひょうご歴史研究室が開設される。	
2016	平成28	4月	「国生みの島・淡路島」として日本遺産に認定される。	南あわじ市HP

西暦	年	月日	事項	出典/備考
2017	平成29	3月	鳴門海峡の渦潮を学ぶ展示施設うずしお科学館、リニューアルオープンする。	
		3月	『「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査報告書～文化編～』発行される。	
2020	令和2	6月5日	「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会、兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会との間で協定書を締結。	
		12月15日	南あわじ市、ノルウェー王国ボダー市との友好連携協定締結。	南あわじ市HP
2021	令和3	12月	『淡路島文化財総合調査報告書』刊行。	
2023	令和5	2月	『「鳴門の渦潮」と淡路島の文化遺産』刊行。	

(略称) 記：「古事記」 紀：「日本書紀」 風：「播磨国風土記」 統紀：「続日本紀」 平城木簡：「平城宮出土木簡概報」
『文化編』：『「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査報告書～文化編～』

- ※1 『松帆銅鐸調査報告書Ⅱ』 南あわじ市埋蔵文化財調査事務所編 2021年
- ※2 『淡路・沖ノ島古墳群発掘調査報告』 西淡町教育委員会編 1987年
- ※3 『地震・噴火・洪水－災害復興の3万年史－ 阪神・淡路大震災20年特別展図録』 兵庫県立考古博物館 2015年
- ※4 吉岡敏和ほか「淡路島中部、先山断層の最新活動とその意義」『活断層研究』16 1997年
- ※5 『徳島藩分間絵図の研究』 羽山久夫 2019年
- ※6 『大地震大津浪未代喺の種 三編全』
- ※7 太田剛「安政南海地震を伝える松茂町の敬諭碑について」『四国大学紀要人文・社会科学編』37号 2012年
- ※8 『宮本常一 農漁村採訪録Ⅶ 淡路沼島調査ノート』 周防大島文化交流センター 2011年